



フードアナリストが飯舘村の「食」を訪ねるバスツアーで来村 9月5日



一行は交流センター「ふれ愛館」でのオリエンテーションに続いて事業者の生産現場を視察。「宿泊体験館きこり」ではグランプリを受賞した商品や郷土料理を味わい交流しました。受賞商品の特設コーナーで販売する「いいたて村の道の駅までい館」にも立ち寄りました。

日本フードアナリスト協会と雑誌「食楽」による『飯舘村復興支援バスツアー』の一行が、9月5日に来村しました。この春、村内の4事業者・6商品が、第97回ジャパン・フード・セレクションでグランプリを受賞したことがきっかけとなり企画されたツアーです。震災と原発事故による避難の影響にも立ち向かい、「農」と「食」の分野で着実に、豊かに発展を続ける飯舘村に関心を寄せ、同協会の横井裕之理事長らフードアナリストが多数来村しました。

「黒毛和牛」「ナツハゼ」「いいたて雪つ娘かぼちゃ」などの生産・加工に携わる事業者の元を訪ね、その声に耳を傾けた皆さん。飯舘村のさまざまな「食」の魅力に触れ、「宿泊体験館きこり」では、受賞商品や郷土料理を美食し、いきいきと交流を深めました。

サポートセンターつながっぺの利用者が いいたて希望の里学園に雑巾を寄贈 9月18日



サポートセンターつながっぺの利用者・約80人がいいたて希望の里学園の子ども達のために作った雑巾140枚を寄贈。やさしさのこもった贈り物に、代表生徒が「大切に使用させていただき、お心遣いに感謝して学校生活に励みます」と感謝を伝えました。

〈編集後記〉

仙台オクトーバーフェ

ストに販売スタッフとしても参加してきました。

お花のワークショップのコーナーを訪れた親子が

「お母さんが今日誕生日だからここで花束を作ってプレゼントするの」と

笑顔を浮かべて話してくれました。親子にとって

特別な一日に、飯舘村の生産者の方々が、文字通り「花を添える」ことが

できた瞬間に立ち会い、

ほっこりした気持ちになりました。(巻野)

黄金の稲穂、蕎麦の花。70年間の歩みを想う時、この実りの景色に綿々と

つながる多くの人の営みに深い敬意を覚えずには

いられません。人々の思いを、暮らしを、仕事を、

挑戦を、忍耐を、愛情を。未来に語り継ぐことが節目に

にいる者の務めのようにも感じます。誇り高い

ふるさと飯舘村、70周年おめでとう！(星)